

| | | | | | | | |
|------|--|------|----|---|----------|------|------|
| 科目名 | 環境工学 II Environmental Engineering II | | | 担当教員 | 多川 正 | | |
| 学 年 | 4年 | 学 期 | 通年 | 履修条件 | 選択 | 単位数 | 2 |
| 分 野 | 専門 | 授業形式 | 講義 | 科目番号 | 13134031 | 単位区分 | 履修単位 |
| 学習目標 | 都市生活の上で必要不可欠な下水の排除・処理および廃棄物処理などの都市環境保全に必要な技術を理解し、環境を保全、修復、管理するための基本的な考え方を習得する。 | | | | | | |
| 進め方 | 授業内容の理解を深めるために、テキストを配布して教科書の内容を補足説明する。講義主体であるが、適宜小実験を見せるので、理解を深める一助にしてほしい。適宜、演習課題（計算等）を行い、化学、単位計算等の理解を深める。 | | | | | | |
| 学習内容 | 学習項目（時間数） | | | 学習到達目標 | | | |
| | 1. 下水道（28） (1) 授業ガイダンス、成績評価 (2) 下水道の歴史、目的、現況 (3) 下水道の計画、施設 (4) 下水の処理方法 ----- [前期中間試験] (2) | | | <ul style="list-style-type: none"> ・下水道設置の目的と現状を説明できる。 ・下水道を構成する施設を説明できる。 ・標準的な下水処理プロセスを図示説明できる。 学習・教育目標：(B) | | | |
| | (5) 汚泥処理 (6) 汚泥廃棄物処理、資源化 (7) 高度処理 ----- 前期末試験 試験返却(1) | | | <ul style="list-style-type: none"> ・汚泥の処理方法と資源化の必要性について説明できる。 ・廃棄物の種類について説明できる。 ・高度処理の必要性が説明できる。 学習・教育目標：(B) | | | |
| | 2. 廃棄物処理（28） (1) 廃棄物の歴史と現状 (2) 物質フロー (3) 循環型社会 ----- [後期中間試験] (2) | | | <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の発生源と現状を理解している。 ・循環型社会について説明できる。 学習・教育目標：(B) | | | |
| | (4) 廃棄物の収集・処理・処分 (5) 廃棄物の減量化・再資源化 (6) 諸外国・途上国における廃棄物問題 ----- 後期末試験 試験返却(1) | | | <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の収集・処理・処分を理解している。 ・廃棄物の減量化・再資源化を理解している。 学習・教育目標：(B) | | | |
| | 4回の試験結果を各々50%ずつ評価に入れて評価する。試験結果は60点以上を合格とする。学習項目の全体評価への重みは、1～2ともに同等とする。定期試験では学年に関係なく、それまで学習したすべての内容（例えば、化学にて1,2年に学習した内容、環境原論、環境工学Iで学習した内容など）を試験範囲とする。 | | | | | | |
| | 評価方法 | | | | | | |
| 履修要件 | 特になし | | | | | | |
| 関連科目 | 環境原論（2年）→ 環境工学I（3年）→ 環境工学II（4年）→ 環境アセスメント（5年） | | | | | | |
| 教 材 | 教科書：住友 恒ら、新版 環境工学（理工図書）、配布テキスト その他の参考資料は適宜テキストにて紹介する | | | | | | |
| 備 考 | 引用・参考図書を配布テキストに併記してありますので、自主的に学習に取り組む、自学自習の姿勢を希望します。また、授業に関連する参考書、図書、DVD等の貸し出しを随時行っています。毎年10月に実施される、公害防止管理者試験（国家資格）にも積極的に取り組んで欲しい。 ・質問等はオフィスアワーに限らず、随時可（事前に連絡があるとより確実な対応ができます）出張・外出等の予定は教員室前のホワイトボードの予定表を参考にしてください ・レポート類の提出先、教員室の場所：建設環境工学科棟2階 環境工学実験室内 ・連絡先：087-869-3928、E-mail tagawa@t.kagawa-nct.ac.jp | | | | | | |